

# 青空機械新聞

2026年4月

発行  
第35号

業界ニュースとトレンド紹介

## 日本国内受注数字

日本工作機械工業会が発表した**2026年2月**の日本国内向けの工作機械受注額は**371億円**で、前年同月比**10.1%**増となり、回復基調を維持しております。

業種別では、自動車関連を中心に設備投資の動きが継続しており、特にEV化対応や次世代車開発に伴う生産体制の見直しが需要を下支えしております。また、生産ラインの自動化や効率化、省人化を目的とした設備更新の動きも堅調に推移しております。さらに、電気・精密分野では半導体関連を中心に投資意欲が回復しつつあり、関連部品メーカーにおいても更新需要が徐々に広がっております。加えて、老朽設備の更新や品質向上を目的とした投資も一定程度見られ、内需の下支え要因となっております。

一方で、中小企業を中心に原材料価格やエネルギーコスト、人件費の上昇に対する警戒感が根強く、設備投資には依然として慎重な姿勢が見られます。さらに、資金調達環境や受注見通しに対する不透明感も影響しており、投資判断を慎重にさせる要因となっております。そのため、企業規模や業種によって回復の度合いにはばらつきが見られますが、全体としては、回復の度合いにはばらつきは見られるものの、内需は底堅く推移している状況です。

### 発行元 会社概要

会社名：株式会社青空機械（あおぞらきかい）

代表者：青木 佑典（あおき ゆうすけ）

主な事業内容：工作機械販売

住所：新潟県新潟市東区中山4-4-13-3

TEL：070-8303-6632

FAX：050-3588-8241

Email：aoki@bsmt.co.jp

## イラン戦争開戦前の数字はどうだったか!?

米国の**2026年2月**の工作機械受注額は**\$488.9 million(約770億円)**で、前月比**10.7%**増、前年同月比**27.4%**増となりました。1～2月累計は**\$930.5 million(約1,480億円)**に達し、前年同期比**26%**増と堅調に推移しています。

約3年にわたる減少局面を経て、2024年後半から回復基調が続いており、市場は持ち直しの動きを明確にしています。

一方で、受注金額の伸びに対して台数はほぼ横ばいと、乖離が続いています。これは自動化投資の拡大や、需要の中心がより高付加価値分野へシフトしていることに加え、設備の高度化による単価上昇などが背景と見られます。ジョブショップでは受注金額が**25%**以上増加した一方、台数の伸びは小幅にとどまり、1台当たりの投資額が上昇している傾向が見られます。



航空宇宙分野では、受注額が前年比**233%**増、台数も**125%**増と大きく伸長しており、防衛需要の拡大も追い風となり、需要の牽引役となっています。同分野では高精度・高信頼性・高機能が求められることから、結果として1件当たりの受注額が大きくなる傾向があります。こうした航空宇宙向けの高額案件の増加が、全体の受注単価を押し上げています。企業の設備投資意欲は引き続き高水準ですが、イラン情勢の緊迫化や関税政策の動向次第では、今後の投資に影響が出る可能性があり、先行きには不透明感も残ります。（AMTレポートより）

## 2026年3月 米国自動車販売台数(新車)

**2026年3月**の米国新車販売台数は前年同月比**12.3%**減の**139万7,835台**でした。3月の季節調整済み年率換算販売は**1,630万台/年(前年同月1,790万台)**でした。※米国では一般的に**1,700万台/年**を超えると新車販売が好調と考えられています。

3月は高止まりする車両価格、電気自動車(EV)購入に対する連邦税控除終了、消費者マインドの低下が重しとなっているなか、厳しい冬季の気象も影響しました。比較対象の2025年3月が好調だった(輸入車に対する関税導入前の駆け込み需要)ことによる反動もありました。

今後はさらに新たな不確定要因としてイランにおける紛争による原油・ガソリン価格上昇が、紛争が長期化すれば市場に悪影響を与える可能性があります。

日本車の3月販売は、各社ともに全年同月から減少しました。トヨタは前年同月比**12.0%減**と**13カ月**ぶりに減少しました。トヨタ以外の日系各社はいずれも二桁減少となりました。ホンダは前年同月比**12.0%減**、日産は**18.8%減**、スバルは**23.5%減**、マツダは**25.7%減**、三菱は**21.6%減**でした。米国メーカーは、GMが前年同月比**16.7%減**と二桁減少し、2025年10月以降**6カ月**連続でマイナスとなりました。フォードも**13.3%減**と**3カ月**連続で減少。ステランティスは**4.4%増**

と**7カ月**連続のプラスとなりました。テスラは**13.3%減**と**2カ月**連続の二桁マイナスとなりました。

韓国車の3月販売は、現代自、起亜ともに減少しました。昨年3月が関税前の駆け込み需要で好調だった為、その反動もあります。現代自は**2.4%減**、起亜は**2.6%減**でした。

欧州車の3月販売はいずれのブランドも前年同月より減少。VWが**22.5%減**、メルセデス・ベンツが**0.9%減**、BMWが**11.7%減**、ボルボが**39.6%減**、アウディが**35.5%減**でした。2月末の総在庫台数は1カ月前の**277万台**から**290万台**近くまで増加しました。在庫日数は前月の**65日**から**92日**に増加しました。(マークラインズより)

## エンジニアリング事業開始のご案内

この度、愛知県の工作機械サービス会社と業務提携を行い、機械の修理・改造、移設・据付作業の提供を開始いたします。工作機械メーカーの外注サービスも行っている会社ですので、品質は工作機械メーカーのサービスと同等とお考え下さい。合わせて、機械の買取事業も強化いたしますので、ご使用になられていない機械や更新時に出される既設機の買取査定をご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

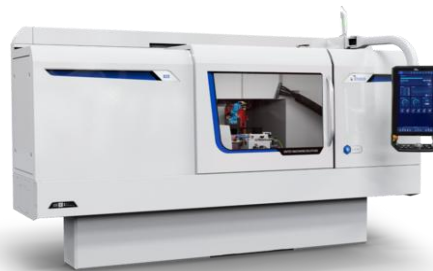
<ご提供サービス(代表例)>

- ・機械修理 ⇒ まずはご相談ください。
- ・機械改造 ⇒ 汎用機(旋盤、フライス盤、研削盤)へのデジタルカウンタ取付等。
- ・機械移設 ⇒ 小型～大型機の移設作業をメーカーへ依頼するより大幅にコストを押さえることができます。
- ・機械据付 ⇒ 中古機購入時の据付(組立含む)をメーカーへ依頼するより大幅にコストを押さえることができます。

## STUDER(スイス) 新製品のご紹介

昨年9月にドイツで行われたEMOショーで初公開されたSTUDER社 新製品 CNC複合円筒研削盤 <S23> をご紹介します。

優れたコストパフォーマンスで、小規模工場でのフレキシブルな単品生産にも、大工場における効率的な量産にも幅広く対応できる理想的な1台です。



主要寸法

センター間距離：650/1000mm  
センター高さ：175mm  
両センター最大ワーク重量：120kg  
テストリング真円度：0.4μm

機械、工場内設備に関してご質問等がございましたら、お気軽に当社までお問合せください。

株式会社青空機械

TEL : 070-8303-6632

FAX : 050-3588-8241

E-mail : aoki@bsmt.co.jp

青空機械

検索

また、新規の機械購入以外にも既存設備のアフターメンテナンスについてもお手伝いをさせていただきます。

例)今は存在しないメーカーの機械修理、現在の窓口商社を変えたい等々。

まずはお気軽にご連絡ください！！

### 青木社長の略歴

1986年6月生まれ(満39歳)  
2009年 (株)兼松KGK 入社  
2010年  
↓ 同社新潟営業所勤務  
2016年  
2016年 日鉄物産マテックス(株) 入社  
2017年  
↓ 日鉄物産(株) 米国法人出向  
2020年  
2021年 ユアサ商事(株) 入社  
↓ 同社新潟支店勤務  
2024年  
2024年 (株)青空機械 設立